

第48回「議員と語ろかい」報告書

地域テーマ型 3班(No.1)

開催日	令和7年1月24日(金曜日) 19時00分 ~ 20時30分		
開催場所	横川公民館 大会議室		
団体名	個人参加(横川地区)	参加 人員	14人 (男 11人:女 3人)
出席議員	植山 太介、川窪 幸治、前川原 正人、野村 和人、塩井川 公子、前島 広紀、前田 幸一、木野田 誠、下深迫 孝二		
役割分担	班長(塩井川 公子)、副班長(前島 広紀)、記録係(前川原 正人)		
テーマ及び 具体的な内容	どうする駅周辺(商店街活性化)		

意見 交換 での 主 な 意 見 等	◆は参加者の発言 ◇は議員の発言
	◆県外から移住し古着店を経営している。駅前を何とか活性化したいことで駅前のシャッターを開けたい。
	◆空き家バンクを作っていただき、市に支援をお願いしたい。
	◆少しでも、空き家をなくすために空き家バンクを活用できるような取組をしてほしい。
	◆移住者であるが、以前は奄美に住んでいた。家を借りるのに保証人が必要であるが、それを確保できない。住むことも大事だが、交流人口を増やすことが必要であり、空き家がいくらあるのかが分からない。人が来ても、滞在時間が1時間程度しかない。旅行客を増やすことが必要ではないかと考えている。横川に来てよかったことは、地域で助け合っていることがありがたかった。
	◆活性化として、丸岡公園と駅をつなぐことはできないか。現在、スケートパークを作りつつあるが、そのことを教えるインストラクターを配置してほしい。国分・隼人のアパートなどの家賃に対して、市が補助して、住みやすくしてほしい。
	◆駅からのアクセスできるバスなどを運行してほしい。
	◆東京からすると、地方は暮らしやすいと角度を変えれば豊かではないかと考えている。

◆は参加者の発言 ◇は議員の発言

◇移住定住促進条例で「家賃補助(上限2万円)」があるが、活用する方法もある。

◆横川支所で判断できないので国分本庁に行かなくても対応できるシステムは作れないのか。お客さんに「国分まで行って聞いてくれ」とは言えない。

◆中心部を地方も同じ家賃であれば、便利な場所に移住していくので何とか魅力あることをできないのか。

◇いくら家賃が安くても、出ていく人は出ていくので、横川は良い場所ということが分かれば、出ていけないのではないかと。人が集まらなければ前には進まないと考える。

◆空き家バンクがあるが、霧島市は機能していない状況がある。行政に頼るのではなく、「地域も行政も一緒にやりましょう」というスタンスを終始一貫して言っている。

◆移住定住者だけが宣伝するのではなく、行政やほかの人たちにも協力してほしい。

◆交流人口を増やすことが大切であるが、各団体や地域との綿密な連携が必要ではないか。駅を中心とした、Mワゴンなどの交流人口ができるような施策を取り組んでほしい。移住定住の促進を強く要請してほしい。家賃の値下げなどにより、公営住宅の活用を議会も執行部にも強力に要請してほしい。空地(公有地)を払い下げることで分譲住宅に活用できないのか。また、これまで出された問題について、その後どうなったのかが分からない。言いつばなし・聞きつばなしになっているので経過を知らせてほしい。

◇項目が出されれば各委員会につなぐようにしている。

◆横川保育園の遊具がなく、補修の修繕費を確保してほしい。

◆駅周辺を活性化するには、子育て支援についても大いに力を入れてほしい。

◆今日ここで出された問題は、支所に話しており議会からも要請してほしい。

◆これまで出された問題が、「形が見えるようにしてほしい」と考えている。移住して6年になるが、変化はなかったと思う。数字的な角度で説明してもらえると、より分かりやすいと思う。

意見交換での主な意見等